

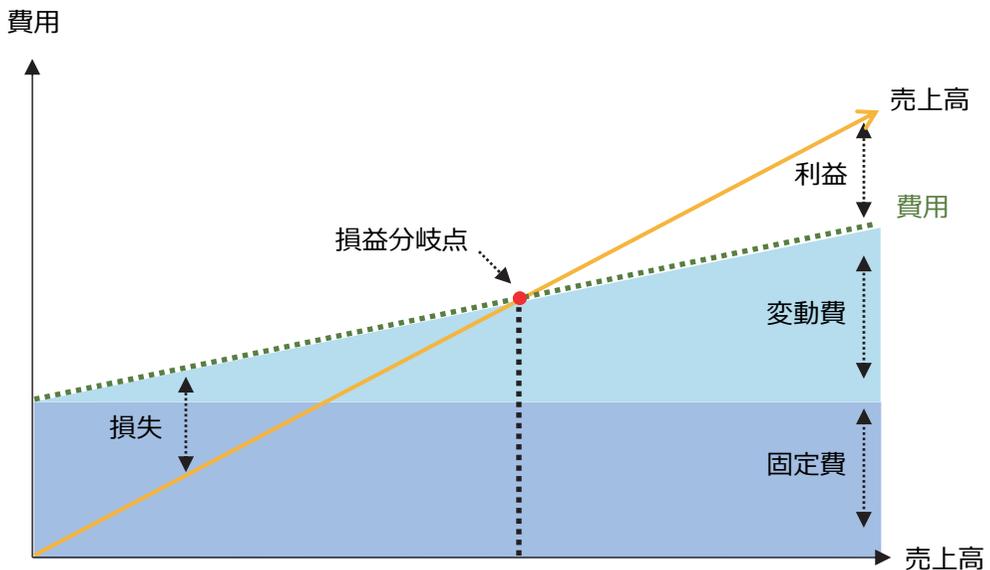
6 会計と財務

このセクションでは主に「損益分岐点」について解説いたします。試験では計算問題として頻出するため、必ず解けるようにしておきましょう。また、その他の試験によく出題される用語についても解説します。

(1) 損益分岐点

損益分岐点とは、売上高と費用が等しくなり（『売上=費用』）、損益及び利益が0になる点（ポイント）のことです。

費用には売上高に応じて変動する「変動費」と売上高にかかわらず発生する「固定費」があります。



■ 損益分岐点売上高

損益分岐点売上高とは、利益がプラスでもマイナスでもなく、売上高から費用を差し引いた利益が0のときの売上高のことです。つまり、売上高と費用の額が等しくなる売上高のことです。なお、損益分岐点と損益分岐点売上高は管理会計上それぞれの意味に違いはありません。このテキストでは損益分岐点売上高を損益分岐点で統一して解説します。

■ 損益分岐点の計算方法

ここでは、あるコーヒー店を例に、損益分岐点の計算方法を解説します。
 コーヒー店の前提条件は次のとおりです。

・ コーヒーの値段	: 500 円
・ 変動費 (1 個あたり)	: 100 円
・ 固定費 (ひと月あたり)	: 50 万円

① 売上の直線を求める

「売上の直線」を表す方程式を求めます。直線の方程式は、以下のとおりです。

$$y = ax + b$$

a は傾き、b は切片です。

売上の直線の傾きはコーヒーの値段 (500 円/個) です。コーヒーが 1 個売れることに 500 円の売上になるからです。

また、切片は 0 円です。なぜなら、コーヒーの販売個数が 0 個のときは売上も 0 円だからです。

この傾きと切片を上記の方程式に当てはめると「売上の直線」は次の式になります。

$$y = 500x + 0$$

② 費用の直線を求める

続いて「費用の直線」の式を考えます。費用の直線の傾きは変動費 (100 円/個) です。コーヒーが 1 個売れることに 100 円の変動費がかかるからです。

また、切片は固定費 (50 万円) です。なぜなら、コーヒーの販売個数が 0 個であっても固定費は必要だからです。この傾きと切片を上記の方程式に当てはめると「費用の直線」は次の式になります。

$$y = 100x + 500,000$$

③ 連立方程式を解く

最後に、これまでに求めた 2 つの式を連立方程式にして x (販売個数) と y (売上高) を求めれば、損益分岐点を求めることができます。

$$(1) y = 500x$$

$$(2) y = 100x + 500,000$$

よって,

$$(3) 500x = 100x + 500,000$$

$$400x = 500,000$$

$$x = 1,250$$

これより,

$$(4) y = 500 \times 1,250$$

$$y = 625,000$$

上記の計算式により、このコーヒー店の損益分岐点は、販売個数が 1250 個で、売上が 625,000 円のところであると判断できます。